

平成 28 年 9 月 8 日（木）

## 市民会議表敬訪問 奥山市長発言要旨

皆様それぞれにお忙しいなか、音楽ホールの建設という大きな目標に向けて大同団結して、音楽関係者としてホールが欲しいのは当然としても、復興によせて、特に心の復興のためにということで広く市民に向けて貴重な時間を割いて活動をなさっていることは、市長としてもうれしく思っている。1年という短期間の間に5万5千枚というチラシを配り、5千人に近い賛同者を集め、寄付金を集められた活動には心から感謝申し上げる。仙台では音楽ホールの建設は長年に亘っての課題であり、さらに震災を経験した仙台市民の心と心をつなぎ、明日に向かって頑張る元気を生み出してくれた音楽の拠点として、また楽都として、仙台には音楽ホールを建設したいものだと思っている。しかし、建設となると様々な議論があり、特に立地が大きな問題となる。現在、担当局で具体的調査を進めており、去年の第1段階、今年の第2段階の調査を踏まえた報告を受けて、今年度末には、次に進むための方策を考えなければならないと思っている。いずれにしても仙台の街にホールを持ちたいという気持ちは皆様と一緒にあり、ステップを踏みながら、市民の理解を得ながら同じ方向に向けて頑張りたいと思っている。

今回の「おたまじゃくしプロジェクト」というネーミングは大変素晴らしい。音楽のおたまじゃくしと、だんだん変身しながら、未来に向けて飛び跳ねてゆくという「おたまじゃくし」を「おたまじゃくしプロジェクト」としたところが素晴らしい。このプロジェクトは、今はまだ尻尾もあって手足も出ていないけれども、せめて来年には手足が出ていくくらいに成長するように頑張ってもらいたい。私もおたまじゃくしが成長するように頑張りたいと思っている。

引き続き市民会議の皆様にもそうした思いを共有していただき、いろいろな場面で市民の皆様にご発信いただくようよろしくお願いしたい。ホールが出来たら皆さんと一緒にカエルの歌を歌いましょう。